



# 【聴覚障害者及び保護者 サポート事業の報告】

共同募金会より助成を受けて「聴覚障害児及び保護者サポート事業」を8月に開催しました。

# 聴覚障害者及び保護者 サポート事業の報

～コミュニケーション豊かな人間関係を願つて

子どもも同士が触れ合っている聴覚障害児ディサービス「子ども夏休みクラブ」、その同じ時間に保護者の「個別相談会」を計画しました。

によつては、聴覚の軽い子どもだけになり、手話がない時もあり、手話のない状況になつてもいいのかと感じました。聴覚効果も、視覚効果も使うような環境を整えることによつて、子どもは、いろいろなものを身につけることができるのではないかと考えさせられました。

だきました。

いのかというのもありました。講演や話し合いを聞いて、これから子育てに参考になった。前向きに頑張っている姿を見て自分も頑張れる。今後もこのようないろいろな人のお話を聞いたり、保護者同士で情報交換や話し合える場がほしいという声をいた

この申込者の半数以上が地域の学校に通う聴覚障害児と保護者でした。その状況から地域の学校に通っていました。聴覚障害児を取り巻く環境を垣間見たように感じました。

聴覚障害児には聴力のレベルも違  
い、人工内耳をつけている子ども、  
手話で話す子どもと、いろいろな子  
どもが集まりました。聴覚障害児が  
に見え、身体表現ワークショップ、  
手話で絵本読み聞かせ、ペットボト

保護者の中には地域の学校か聾話学校に行かせようかという迷いがあるので、いろいろな話を聞きたい。また

教育を受けた」など様々な立場の聴覚障害者のお話もありました。他にも京都にある難聴学級の教師を招き、現場から思うことや聴覚障害児を育てて今は成人となった保護者の体験談の講演もしていただきました。講演の後は講演の感想と自分の子育てで思うことを語り合いました。

保護者は、自分が受けた聴覚障害者教育や今の自分が思うことを話しました。また、「聾話学校一貫で教育を受けた」、「地域の学校一貫で

A black and white photograph showing a man from behind, sitting at a desk in an office. He is looking down at some papers on the desk. The desk is cluttered with various items, including a telephone, a keyboard, and several papers. In the background, there are shelves filled with books or files. The lighting is somewhat dim, creating a focused atmosphere.

I8

全国情報提供施設連絡会brook会議に参加して  
（真剣に語り合った施設運営）

全国ろうあ相談員研修に参加して

全国聴覚障害者情報提供施設協議会第三ブロック（近畿、東海）は9月25日、大阪ろうあ会館で今年度で二回目の会議を開きました。今回は10月開所の奈良県聴覚障害者情報センターが新しい仲間として出席、11施設から22人が集まりました。

厚労省や文化庁との交渉経過、障害者政策委員会の動きなどの報告があつた後、昨年度までに集計した全国実態調査結果に基づいて職員配置、雇用形態など施設運営に関する情報交換を行いました。続いて障害者総合支援法施行に伴う手話奉仕員及び手話通訳者養成の方向について現状と課題が話し合われました。

指定管理者制度導入による人件費の抑制、事業仕分け、入札、人材確保の困難さなど厳しい報告がありますが、施設間で常に情報交換していくこと、障害者差別禁止法の制定や「合理的配慮」についてもさらに学習していくことが確認されました。



全国情報提供施設  
連協議会

東海 ブロック	静岡県聴覚障害者情報センター
	名身連聴覚障害者情報文化センター
	岐阜県聴覚障害者情報センター
	三重県聴覚障害者支援センター
近畿 ブロック	滋賀県立聴覚障害者センター
	京都市聴覚言語障害センター
	兵庫県立聴覚障害者情報センター
	和歌山県聴覚障害者情報センター
	大阪ろうあ会館
	堺市立健康福祉プラザ視覚・聴覚障害者センター
	奈良県聴覚障害者支援センター

第26回全国ろうあ者相談員研修会  
が、7月25日・26日、富山県聴覚障害者センターで開かれました。全国のろうあ者相談員等が資質の向上のために一堂に会し、研修と情報交換を行う為に実施されています。滋賀から田中と中西が参加し、全国各地から54名の参加がありました。

第1回目の前半は「災害時にあける相談支援」と題して「なかま」現地コーディネーターの小海秀純氏より現地の様子や災害支援の現状・課題等をお話しいただきました。印象に残ったことは、被災県の社会資源は乏しく、聴覚障害者の安否確認や状況把握から始めないとけなくて、直接支援を実施するまでに時間を要したことは想像できないほどの大変な努力や苦労があったことです。聴覚障害者に関する社会資源（聴覚障害者情報提供施設や手話通訳制度など）の必要性を改めて強く感じました。

後半は、事例に基づき分科会で討議を行いました。横浜ラポールから

相談支援事業に大切なことは、「主の個人の尊厳を保ち、意向を尊重し必要なサービス提供をするためには、センターと市町村相談支援事業との連携が不可欠」とまとめ、2日間の研修会が終了しました。

治体への協力を得ながら取り組んでいる県もあり、市町村には、総合的なコーディネートができる人が必要とのお話をありました。

相談は文にして横々たる機関とのネットワークを活用しながらの支援の大切さを再確認しました。それを基に「情報提供施設と市町相談支援事業」と「情報提供施設の相談員の位置づけ」というテーマに絞って全員討議を行われました。県の相談事業が自治体への協力を得ながら取り組んでいる県もあり、市町村には、総合的なコーディネートができる人が必要とのお話をありました。

相談支援の事例から始まり、相談までのプロセスについてや、様々な支

## 平成24年度要約筆記養成講座の報告

### 「少数でも信頼できる登録要約筆記者を」

要約筆記者養成講座は前期課程と後期課程の2期を経て終了となります。毎年4月から後期課程の講座が始まります。4月から開講するのは、前年度の秋に募集をおこない、聴覚障害・日本語の基礎知識から要約筆記の基礎知識・技術を学び、前期課程講座を修了された方々を対象として始まるからです。

同講座では湖北方面にパソコン要約筆記者の登録がごく少数であることから、彦根市のご協力をいただき、彦根市障害福祉センターで湖北地域在住者を中心を開くことができました。2011年9月の開講時点には15名の応募があり、指導者、事業担当者ともに多数の要約筆記者の誕生に期待を膨らませたものでしたが、2012年4月、後期講座の開講前には、残念なことに、生活の変化や仕事の事情により、半数の修了者が受講できなくなりました。保育園に入れなかつたため受講困難となつた方まであり、残念なことでした。

後期講座では、ろう運動史、教育史、権利獲得のために運動を進めて

きた経過を知り、手話通訳論では、求められる通訳像について、要約筆記者としての姿勢に示唆を与えられる講義、実技編では論理性のある伝達、専用ソフトの機能を自在に活用できる技術を積み重ねて、派遣現場での実践に備えた実習を重ねてきました。気軽にボランティアを想像して受講された方、社会福祉事業を担うという重責を感じられた方、聞きたながらキーボード入力することに予想外に落ち込まれた方もいらしたかもしれません。

その困難を乗り越え、8月末に閉講式を迎えた6名の修了者には、仕事時間を調整し、貴重な休みを利用して、通っていたいだいた方々に篤い思いで一杯です。少数精鋭ということばどおり、少数でも福祉サービスの提供者として信頼できる登録要約筆記者となつていただけるよう認定試験を前に祈る思いがあります。

また、9月4日から滋賀県立聴覚障害者センターで始まった前期課程講座では、12名の方々が要約筆記の技術の習得を目指していただいている

ます。以前よりは「要約筆記」の存在を知る方は増えていますが、日本語の現代表記まで学び直すなどとは想像外だったかもしれません。しかし前向きで、楽しそうに受講いただいている、今後の成長が楽しみです。

### いきいき教室の取り組み 「芸と笑いは長寿につながる！ いきいき楽芸団で発表しました」

当センターでは、毎月1回主に湖北地域で暮らす聴覚障害者を対象に、日常生活に必要な知識や情報の学習や交流の提供を目的に「いきいき教室」を米原市で開催しています。毎回、午前に様々な講師をお招きして福祉制度や消費生活の問題、健康体操など学び、午後からはレクリエーションと健康相談を実施しています。

主に40代～80代までのろうの方々に約25名ほど参加していただき楽しい一日を過ごしています。

去る7月のいきいき教室で、9月に開かれる「手話ふれあいフェスティバル」にいつも参加しているが、ステージ発表はきこえる人ばかり。この参



加メンバーで何かステージ発表がしたいとの声が高まりました。そこからどのような内容がいいか相談を重ねた結果、幼い頃の遊びやろう学校の懐かしい話を発表しようということになりました。いきいき楽芸団の結成です。

当日、みなさん緊張しているかな？

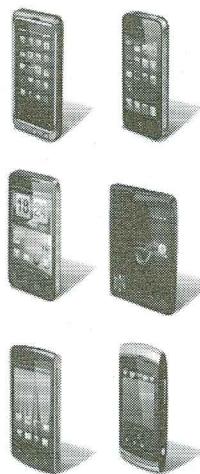
と思いましたが、そこは長い人生を歩んでこられた先輩たち。「おでだま」「あやとり」「チャンバラ」など昔の遊びをおもしろく楽しそうに発表され、会場は笑いと拍手で溢れました。そして見事「芸と笑いは長寿につながる賞」を主催者からいただきました。参加されたみなさんからは「みんなから見ていただいて嬉しかった。」「おもしろかった」との感想が聞かれ、「来年は何をしようか？」とすでに来年の意気込みの声もあり、まさに芸と笑いは長寿につながる機会となりました。

## 二最近のIT相談二

最近のIT相談で急増している内容があります。それはスマートフォンについてです。巷ではスマートフォンを見かける人が多くなってきました。しかし、スマートフォンはPCと携帯を併せたようなものです。そこで、使いこなせなく、相談が相次いでいます。相談の中に、このようなことがありました。

- 定期的にあるアプリのアップデートをずっと保留していた。
- 電池の消耗が激しく、外出時に困っていた。
- WiFiについて理解できなく、家にあるネット環境を有効に使っていなかった
- タッチパネルでのタッチ操作のいろいろな使い方があるということがわかった。
- マイクロUSBの使い方がわかった
- 携帯の状況を知ることができる画面の一番上にある「ステータスバー」の使い方がわかった。
- 携帯の本体の一番下にあるボタンのいろいろな使い方があるということがわかった。

などいろいろありました。滋賀県立聴覚障害者センターでは、IT相談員がいますので、ご相談ください。



## 今年もセンターがきれいになりました。

社団法人滋賀県ろうあ協会高齢部のみなさまが「日頃からお世話になっているから。」ということで毎年センター周辺を清掃していただいている。

今年も、暑い中、熱中症防止のために早朝から集まってセンター周辺の植木を剪定、草刈をしていただきました。以前、花を植えていただいたところもきれいに整えていただきました。以前から気になっていた針葉樹も撤去し、見通しもよくなりました。

おかげさまで、今年もセンター周辺がきれいになりました。

社団法人滋賀県ろうあ協会高齢部のみなさまありがとうございました。



### たつのおとしご

私の親子のコミュニケーションは口話、キュードサイン、身振り、手話、筆談でやることもあるけど、主にといえば口話でやっています。

ある日、父がスーツを着た時に私は「カッコいいね」と言っているときに、父は突然前けりをしたので、何が起こったのかわからなかったのだが、隣にいた母がこういったのです。「私が『前見てカッコ良くて、座ったら靴下に穴あいたらカッコ悪いでしょ。』と言ったの。」と。つまり、靴下に穴があいていないかどうか確認してもらうために、ユーモア交えての行動であったのです。その後、父はもう一度前けりをしてくれました。このようなやりとりは通常より時間的にずれているのですが、一緒に笑えるという瞬間を持つてることに幸せを感じたのです。他にもごはんを食べに行く時も、中華店で母が胡椒を振ってもなかなか出ないときに父は「これは故障（コショウ）してんな」と言ったのを、母が笑いながら通訳してくれ、一緒に笑了いた時もありました。

これは両親が私と過ごしていく中で築いていったコミュニケーション方法なんだなと感じました。

でも、かって、コミュニケーションできなかつた時期があって、これはどうしてなのだろうかと思うことがありました。そんな時に、今夏、聴覚障害児の事業に関わって、聴覚障害児を育てたお母さんの講演から「振り返ってみると、当時は余裕がなくて、子どもを叱りっぱなしだった。」という話を聞いて、子どもが成長したからということもあるのですが、『余裕』があってこそ、コミュニケーションできるものだと改めて感じたのでした。どんな時でも、余裕を持っていきたいものです。

(Y.Y)